

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 シルバーハウス 寿楽

ユニット名 友鶴

自己評価実施年月日 平成20年10月始めから末にかけて

記録者氏名 小川 イク子

記録年月日 平成 20 年 10 月 28 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域に自然に溶け込んだグループホームでありたいという願いもあり散歩を日課にしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	新しい職員には折りに触れ理念の成り立ち経緯、そして実践の結果を話している。そうする事で共感を得、新旧チームワークの下、正しいことをやり続ける事が出来るグループホームを目指している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	散歩や外出のおり、地域の方々との道端での出会いがあり、声を掛け合う中で自然に発信できていると感じている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	○	民生委員さんを介してもっと地域の方の参加が増えるように、働きかけていきたい。内容ももっと充実させたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	法人の協力の下、前向きに取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>		日常的に行き来する機会はもてなかったが、不明な点などは、相談し支援を受けている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	今後も勤務調整を行いながら、研修で学ぶ機会を全職員がもてる様に努める。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>		職員は出来るだけ研修に参加し、最新の情報を学び、虐待は絶対あってはならないと一人ひとりのスタッフが認識できている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明は可能な限り利用者の方にも入ってもらい、不安、疑問点には説明を行い、理解と納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情を出しやすいような、日頃からの入居者との信頼関係や雰囲気作りに努めている。意見箱も設置している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしの便りを、月単位でまとめ家族にお渡しし日常を知って貰う様にしている。ご家族からは、「楽しみにしている」「家族皆で読んでいる」「家で居た時からは想像できない」などの感想を頂いている。又来所時には記録や健康チェック表なども見て頂き、寿楽での生活や様子をお伝えするようにしている。	○ お預かりしている、金銭帳を見て頂きサインをもらっている。家族会では、行事や職員の異動、事故報告（ひやりはっど）等も行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも受け入れるよう家族とのコミュニケーションを図っている。ご家族の方と共に支援をしていきたいと常に声をかけている。家族会でもいつもお聞きする様にしている。また、毎月お渡ししている暮らしの最後には、苦情に関する受付窓口や担当者をお知らせしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見、提案を聞けるよう努めている。また、それを職員間で話し合い前向きに取り組んでいる。意見の出しやすい職場であるように心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて勤務調整をしている。家族会、多人数での外出、一泊旅行、月二回の学習会などには職員が参加出来るよう調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	本来なら管理者が、経過を追った指導をすべきであるが職員数の関係上、一スタッフとして現場に出ないといけない日が多く管理者としての責任が果たせていない。職員数増員の為の募集はずっと行っているが、今後も求人活動には力を入れていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		食事会や、親睦会をもっと増やしていきたいと、話し合っている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決めるまでには、見学に来て頂き、どんな所か雰囲気を感じてもらおう事をしている。また、来て頂くことでご本人の表情からも、気持ちを察することが出来る。見学の中でご本人の気持ちを引き出すように、また、受け止めるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の声を聴き、本人、家族の困っていること、不安な事、求めている事を職員間で共有し合い、どのような対応で受け止めていくか話し合いを重ねている。入居の申込があったときから、気楽におい出いただき、相談にも応じ信頼関係を深めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を共有しあいながらも、寿楽での生活の中での、気づきを出し合う。アセスメントを重ねていく中で、必要とする支援の見極めに努めている。社会資源を紹介する事も行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に見学してもらい、他の入居者の方とお茶を飲んだりしてもらう中で、徐々に雰囲気に馴染んでもらっている。本人が入居を納得されるよう家族と相談しながら、落ち着いた気持ちで入居出来るように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に一緒にすると言う事を念頭にやってきた。新しい職員にも、一緒にする事の大切さ、業務を優先しない対応を指導している。その中で職員は、入居者から沢山の学びがあった。	○ 新しい職員に入居者への言葉遣いや、対応を指導する時古い職員も振り返りのチャンスと、している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談したり、常に連絡をとっている。嬉しい言葉が聞けた時には、家族に伝え、共に喜び合っている。本人と一緒に支えていくという関係が出来ていると思われる。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の様子を報告、相談している中で特に喜ばしい事は出来るだけ早くお伝えするように心がけている。喜びと安心を共有する事で本人と家族との関係の調整に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで、親しくしてきた隣人や友達の訪問は、全職員が快くお迎えしている。また、訪問して頂きやすいような働き掛けも行っている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事のテーブルの位置、くつろいで座る位置にも配慮し、トラブルが起きないように配慮している。また、利用者同士の良い関係作りが出来るように努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後も家族との関係を大事にしている。入院退去になった方には、本人が不安にならないように職員が交代で顔を見せるように務めている。退去された後も、ご家族がボランティアでおい出てくださいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表に現せない方が、何を望んでいるか、どんな支援が必要かを常に職員間で話し合い、気付きを出し合い本人の支援に努めている。また、意志表示の出来る方に関しては、ご本人の思いを大切に過不足のない柔軟な支援に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしを含めた生活環境の情報を、家族から得るように努めているが、入居後の暮らしの中から、段々に把握できてゆくことも多い。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの連続性の中で、きちんと向き合い、総合的にその方の現状を把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いや要望を引き出すように努めている。週一回の合同介護計画や、問題の起こったときは、その都度職員間で検討して介護計画に活かしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	気がかりな事や課題が生じた時は、その都度話し合い必要に応じて家族や関係者とも相談し、新たな計画作成に努めている。	○ 個人記録には、プランにある目標やケア項目に関する記録を行い、その項目が解り易いように☆印をつけている。記録から、無理が生じていないか、プランが実行できているかなどが分かり、見直しに役立っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録用紙の右端に、職員の気づきを書く欄を作り、書き込むようにしている。その気づきを共有し、介護計画に活かしている。	○	十分ではないが、気づきの欄への書き込みが行えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模ゆえに機動力はあり、本人、家族の希望に添った柔軟な対応を心掛けている。急な外出の支援、正月を家族と迎える支援、歯科医の往診、家族の宿泊など。	○	初めて入居される方に、強い混乱が予想される時や、共同生活に馴染めるかなどの、不安が強い時は、お試しの入居期間を提供している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて民生委員や消防、市町村関係に相談し支援や協力を頂いている。社協よりボランティアの紹介も頂いている。	○	ボランティアで、ギター演奏や書道、紙芝居などをして頂いている。また、退去された、御家族がおいでくださり、散歩に行ってお下さっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、歯科医や整形外科医の往診を受けている。また、他施設の相談員やグループホームの職員に困った時など相談し、協力を得ている。	○	2ヶ月に一回のGH親交会でも、話し合いの場を設けている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、包括支援センターの職員が参加してくれ、寿楽の暮らしを見て頂くなど交流を重ねていく事で協力関係ができています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	必要に応じて訪問、電話などで相談に応じている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	待つという事の難しさは、大変な事であるが、出来る力を取り上げる事無く支援をしている。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	希望に添えない時もあるが、その時その時で了解を得ながらの対応を心掛けている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		起床時、本人が自分で服を選択できる様、見やすい場所に吊るしておくなどの支援をしている。また、美容院は本人の行きつけの店に行ける様努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	便秘の予防からも水分を多く摂ってもらう事を、スタッフが意識している。また、食材にも繊維の多い物を取り入れ、運動への支援も心掛けている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	出来るだけ、入りたい時間に添えるように、3時間～4時間の入浴時間を取っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	午後には、自室で少し休んで頂く支援もしている。午睡が苦手な方には、強制はしていない。足が腫れやすい方には、足を伸ばして休んで頂く言葉掛けをしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方にとって、いくつもの手続きを必要とする、買い物がいかに困難なことかも、職員は認識している。家族の意向も伺いながら支援している。	○	希望や力に応じて買い物を楽しみ、自分から支払うことが出来るよう支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	二階ユニットは、外の景色が目に入りにくい事もあり散歩や外への支援が難しいものがある。また、夏場は暑さが厳しく、外へ向けての支援がことさら難しい。小人数ずつの散歩への支援をしている。	○	夏場は少しでも気分転換をして頂く為に、三階のホールから外の景色を覗てもらったり、陽の傾きかけた夕方に散歩に出る支援をしている。行きたいと思っ頂けるような言葉掛け工夫が、まだまだ必要である。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい場所を、言ってもらって出来るだけ応えるようにはしているが、全員の要望には応え切れていない。入居者の皆さんから希望のある、一泊旅行は、今年も実施できた。季節の花を楽しみながらの外食なども、行っている。	○	本人、家族の希望も伺いながら協力も頂いて、普段行けない場所への外出支援が、もっと出来るように工夫したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、使い易い場所に置く事で、自由に使ってもらっている。また、自分でかけれない方には職員がかけて、変わるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に寄って頂いている。二階ユニットの玄関は、国道沿いにあるため、玄関周りは出来るだけ明るい雰囲気にするように配慮しているし鍵はしていない。訪問者があれば、皆さんに必ず声をかけて紹介する事で、他の方の家族であっても馴染みの関係になれる様に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行動を正しく理解し、また、予測できる行動は職員全員が共有し、職員間の連携の下、身体拘束は行わない対応が出来ている。	○	入居前には殆どの方が、抗精神薬を服用されているが、日々の様子を観させて頂きながら、家族、本人、かかりつけ医と相談しながら徐々に減量し、一週間から三ヶ月以内で服用中止となり、皆さん普通の暮らしをされている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	裁縫をした後は職員が数を確認している。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	事故、ひやりはっとの内容によっては、ロールプレイにより再現して、話し合っている。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	近所の方との連携を良くして、助け合ってゆけるように努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に日々の暮らしを良く見て頂いて、その方にとって起こりうるリスクと対応策を説明する。それでも尚、起こるかもしれないリスクについての話し合いも重ねながら、抑圧感のない暮らしを継続してゆく力に変えている。	○	古い民家を改修した建物で、予想されるリスクが沢山ある為、入居前に本人、家族には建物内を見て頂き説明する事で、理解して頂いている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早めの対応に心掛けている。顔色、表情、暮らしの中から変化を感じたら、さりげなく脈に触れる方法をもちながら、体調の変化や異変の発見に努めている。また、気づいた際には情報を共有し、対応を行っている。悪化を予測し、休日前には、早めの受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が追加された時や内容が変わった時は、薬の副作用についても把握し、職員間でも共有している。薬によって差はあるが、7～10日間は体調の変化がないか観察している。	○	血圧の薬に変更があった時には、毎日の血圧測定を徹底し、変化がある時は、再チェックを必ず行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、繊維質の多い食材を使った献立や、寒天ゼリーを作ったり、また起床時にはコップ一杯の水を飲んでもらったり、冷たい牛乳を飲んだりして便秘の予防、対策に努めている。運動にも心掛けて、散歩に出れない日は、屋内を階段も使いながら歩くようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。言葉かけがなくても習慣づいている方もあるが、力に応じて言葉かけ、見守り介助を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量はカロリー計算したものではないが、だいたい一日1,500kcalを目安にしている。水分は少なくとも1,300ccを目標に摂取量を毎日チェック表に記録し職員が把握し対応している。	○	バランスの良い献立を心掛け、水分をあまり摂りたがらない方には個別の工夫をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外から入って来る時は、必ず手洗いうがいをしている。入居者、職員だけではなく家族や来客の方にもお願いしている。感染症流行の時期には生物を控える配慮をしている。今まで7年間発生はない。	○	一年を通じて食材は必ず加熱してから調理をする事を基本として実行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は日光消毒し、布巾はハイター消毒をしている。食材は日付確認し、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。調理したものは後に残らないようにしている。	○	雨の日などの布巾の乾燥には、アイロンを使っての乾燥を実行する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには草花を植え、玄関には緑と花を絶やさないようにしている。南玄関は常に開けていて、庭にはベンチを置くなどしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、台所、食堂、トイレ、洗面所などに緑や季節の花を絶やさないように心がけている。光の差込が強いと感じたら入居者の方が、自由に開閉を調節しているし、援助も行い、心地良い空間作りに努めている。また、すだれや立てずを使って調整も行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2～3人が座れるソファやベンチを所々に置き、思い思いに過ごせるようにしている。一人になれる時間にも配慮をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	居室のエアコンをつけ、その空気を廊下にも流すような工夫をしている。エアコンを常時使用する季節には、一階、二階が同じ時間に換気するように連携している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	居室入口の窓に、紙を貼ったり、マスコット人形を吊るしたり、馴染みのある物を目印として使ったりしている。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々普通の暮らしが、送れるように支援している。理念にもある、「いつも一緒にゆっくり、ゆっくり、ゆっくりと」を職員全員が念頭に置き、暮らしの中での食事作り、掃除、買い物、洗濯など職員と一緒にする事で、一人ひとりが「出来る事がある」という自信の中から、その方が生き生きと暮らせる、そんな支援を常にチームで試行錯誤しています。そんな暮らしの中で、落ちつきを取り戻し、力を発揮して、できる様になった時の本人の喜び、御家族の喜びや安心、そのような事が私達職員にはパワーとなっている。共に喜びたいという思いで私達職員は暮らしの支援をしています。